

魅力ある学校づくり協議会(板橋第九小・中根橋小・板橋第一小) ニュース

第2号

発行日：平成 27 年 4 月 7 日

開催日：平成 27 年 3 月 17 日

発行：板橋区教育委員会事務局

新しい学校づくり課

学校配置調整担当課長

電話 3579-2090

第2回協議会内容

平成 27 年 3 月 17 日に中根橋小にて第 2 回協議会を開催しました。主な内容は、次のとおりです。本号では、協議会で使用した資料の一部と質疑応答（意見）の主な内容について紹介いたします。

1. 「板橋第九小」「中根橋小」「板橋第一小」の現状について
2. 板橋第九小 就学に関するデータ
3. 板橋第九小・中根橋小・板橋第一小の児童数・学級数予測
4. 板橋第九小・中根橋小・板橋第一小の平成 27 年度の入学予定者数について
《質疑応答》
5. 学校別 閉校前児童（生徒）数・学級数一覧
6. 小規模化した学校の取組事例紹介（島根県隠岐島前（おきどうぜん）高等学校）
《質疑応答》
7. 事務連絡

1. 「板橋第九小」「中根橋小」「板橋第一小」の現状について

《板橋第九小》

○学校沿革の概要 昭和 24 年 学校開校

○校地と校舎（公立学校施設台帳より）

・校地面積 8,044 m²、運動場 3,639 m²

○児童数・学級数の推移（各年度 5 月 1 日現在）

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
1 年生児童数	24	24	32	26	10	13	12	15	6	30
1 年生学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
総児童数	192	191	184	181	154	133	114	111	85	87
総学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

《中根橋小》

○学校沿革の概要 昭和 27 年 学校開校

○校地と校舎（公立学校施設台帳より）校地面積 6,928 m²、運動場 2,974 m²

○児童数・学級数の推移（各年度5月1日現在）

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
1年生児童数	67	72	63	74	70	66	54	67	59	65
1年生学級数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
総児童数	381	381	388	400	401	395	391	391	384	379
総学級数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12

《板橋第一小》

- 学校沿革の概要 明治7年 学校開校
- 校地と校舎（公立学校施設台帳より）校地面積 10,038 m²、運動場 5,072 m²
- 児童数・学級数の推移（各年度5月1日現在）

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
1年生児童数	55	46	56	51	65	57	71	65	65	65
1年生学級数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
総児童数	260	275	290	290	305	322	333	354	364	370
総学級数	10	11	11	11	11	12	12	12	12	12

2. 板橋第九小 就学に関するデータ

《通学区域別学齢人口》（平成27年2月1日現在の住民基本台帳による）

入学年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
板橋第九小	55	34	37	62	49	53	55
中根橋小	51	35	58	52	61	49	67
板橋第一小	66	63	55	75	70	66	87

※通学区域内の未就学児の人数を入学年度別にまとめたものです。

3. 板橋第九小・中根橋小・板橋第一小の児童数・学級数予測

《平成32年度までの児童・学級数の将来予測》

今後6年間の児童数の推移を予測するために過去の入学率をもとに算出しました。

学校名	内容	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
板橋第九小	児童数（学級数）	90(6)	86(6)	85(6)	98(6)	100(6)	114(6)
中根橋小	児童数（学級数）	375(12)	359(13)	375(14)	396(15)	419(14)	428(15)
板橋第一小	児童数（学級数）	371(13)	403(14)	423(15)	457(15)	491(16)	521(18)

※入学率は、過去5年間の平均、抽選は考慮していない。

《平成52年度までの児童・学級数の将来予測》

長期的な児童数の推移を予測するために国立社会保障・人口問題研究所の推計をもとに算出しました。（長期予測のため、入学率は100%で算出）

学校名		25年度	42年度	52年度
板橋第九小	児童数（学級数）	85(6)	236(8)	211(8)
中根橋小	児童数（学級数）	384(12)	231(10)	207(8)
板橋第一小	児童数（学級数）	364(12)	300(11)	267(10)

質疑応答及び意見

委員：子どもが板橋第九小の一年生です。児童数が少ない学校で不安もありましたが、毎日楽しく通学しています。何かあれば学校の先生が対応してくれるからだと思います。小規模校に身を置く立場の者としては、デメリットは感じていません。集団での活動がしにくいとのデメリットがあるとのことですが、大人数での切磋琢磨は、中学生以降でも出来るので小学校で無理にする必要がないと思います。是非、校舎の建て替え期限までは、板橋第九小を残していただきたいと思います。もし、人数が少なくなることがデメリットになるのであれば、入学予定校変更希望制を無くして通学区域の学校に通学するようにして小規模校も残していただきたいと思います。

委員：今回説明していただいた資料で近隣校との未就学児の学齢人口（各学校の学年ごとの児童数）にあまり差がないことが分かりました。教育委員会が、板橋第九小が存続すると公表すれば、確実に人数は増えると思います。12～18 学級が望ましいとのことですが、諸外国を見ると 100 人程度で一つの学校としている国が多く、学力No.1 と言われているフィンランドでは、100 人単位で学校を設置しています。保護者は、小規模校のデメリットばかりを気にしてしまっていますが、板橋第九小では、保護者の方と意見交換を重ね、板橋第九小で良かったと多くの声を聞いています。今後は、小規模校ならではのメリットも説明してほしいと思います。いじめの問題も 100 人以下では先生の目も行き届くので、いじめが発生しにくいのではないのでしょうか。

事務局：教育委員会も文部科学省も小規模校が直ちに悪いわけではないとの認識です。小規模校にはメリットとデメリットがあり、小規模化が進行するとデメリットがでるとの説明をしており、板橋第九小は、学校の教職員や保護者の皆様の努力でデメリットがでてきていないとも思っています。教育委員会と文部科学省は、学校の適正規模をクラス替えの出来る 12～18 クラスと考えており、小規模校のメリット・デメリットについては、次回以降説明します。

委員：地域の保護者の方に何故板橋第九小に通学しないのかと聞いてみると、板橋第九小に不満があるわけではなく、保育園・幼稚園の友達関係で他校を選んでいるとのことでした。できれば、1 年間だけでも入学予定校変更希望制を廃止してはどうでしょうか。問題があれば、元に戻せば良いことだと思います。

事務局：板橋区では、平成 16 年度の入学予定者から、入学する学校を選びたいという保護者の意志を尊重するため学校選択制を導入し、一定の成果を上げているものと考えております。学校選択制が始まり 10 年が経ち、制度の見直しを図り、入学予定校変更希望制とし、原則は通学区域内の学校に通い、一定の条件を設け、その基準を満たした場合に隣接小学校を希望できることとしております。今後は、入学予定校変更希望制の検証を行うほか、通学区域校に通学することが原則であることを周知していきます。

委員：通学路の安全対策が重要ではないのでしょうか。通学路が安全でなければ保護者も安心して通学させることが出来ません。少人数の良さも分りますが、多少の喧嘩があるぐらいの方が、子どもたちの環境には良いのではないかなと思います。学校選択制の是非の議論もありますが、学校選択制は既に始まっており、止むを得ないのではないのでしょうか。人数の議論をしても始まらないので、子どもの気持ちを大切にしていきたいと思います。

事務局：通学路の安全対策についてですが、今後、この協議会で一定の結論が得られ、通学区域の変更が行われた場合は、交通事故が無いように関係部署と連携して通学路の安全確認を行っていきます。現在の板橋第九小については、小規模校のメリットが出ていると認識しておりますが、今後、先生方の異動もあり、現状が保障されている訳ではなく、将来デメリットが出てくる恐れもあります。

会長：学校の適正規模を考える時に人数以外の要素が含まれることもあります。過去に男の子が1人となった学級があり、そのことを保護者の方が心配して、最終的には女の子だけの少人数のクラスとなったケースもありました。人数の多い少ないもありますが男女の構成比も重要だと思います。

委員：大山小は複式学級になったとのことですが、どのようなケースだと複式学級となるのでしょうか。

事務局：複式学級については、東京都では、1年生と6年生は対象外となります。連続した学年で併せて10人以下、1学年5人以下となると複式学級となります。大山小の最終年は、2年生と3年生、4年生と5年生が複式学級になりました。

委員：平成26年度の板橋第九小の入学者は30人でした。教育委員会が、平成26年2月に「いたばし魅力ある学校づくりプラン」を作った時点では、30人入学することは分っていた筈だと思います。私としては、本当に協議会を立ち上げる必要があるのかという疑問が強くあります。今年入学した30人を卒業させることは、当たり前のことだと思います。教育委員会は、小規模校を解消するために、これまで何かしてくれましたのでしょうか。板橋第九小を閉校する話があるのであれば、板橋第九小が選ばれないのは、当然だと思います。教育委員会が板橋第九小は無くならないと決めてくれれば、子どもの人数は必ず増えていくと考えています。私は、周辺校との統廃合や吸収は望んでいません。今一度、この協議会を開く意味があるのか確認していきたいと思います。この協議会を開くことが子どもの減少を生んでいるのではないのでしょうか。

事務局：教育委員会としては、区内全体の学校を平等に扱わなければならないので、一つの小学校だけを特別扱いするのは、難しい面があります。30人が入学したタイミングでプランを策定したとのことですが、板橋第九小は、平成17年度から全学年で単学級が続いている状況です。教育委員会としては、板橋第九小が、約10年間単学級が続いていることも踏まえて判断したところでございます。本日委員の方々からいただいたご質問やご意見については、次回の協議会で出来る限り資料を用意して説明をしていきたいと思っております。

次回予定

平成27年4月27日（月）午後6時00分から午後7時30分まで
場所：板橋第一小学校 ※月に1回程度開催する予定です。

協議内容予定

- ・「公立学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」
- ・大山小学校について等

発行元 板橋区教育委員会事務局 新しい学校づくり課 学校配置調整第二グループ

電話 3579-2090 FAX 3579-4214

※魅力ある学校づくり協議会（板橋第九小・中根橋小・板橋第一小）の会則・協議会ニュース、次回の日程等は、区ホームページからご覧いただけます。

http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/067/067580.html